

「暮らしを支える健康ネットワーク」 (中空知地域リハビリテーション広域支援センター)

「目的」: 住民のQOLの向上

「どこに住んでいても、生涯を通じて安心して

生きがいのある暮らしができる」

- ・中空知圏域の地域リハビリの課題やニーズに応じ、
多領域・多職種の間での支援体制の構築
- ・圏域のリハビリに関する情報の共有化
- ・急性期・回復期・維持期リハビリを担当する病院・事業所間の連携強化
- ・特に維持期リハビリを担当する機関のスタッフ(ヘルパー・施設職員等)の資質の向上
- ・各種事業をととして、関係者関係機関のネットワークの構築の推進

活動

- ・総会(年1回開催)
- ・運営会議準備打合せ(2回)
- ・運営会議(年4回開催)
- ・タウンミーティング(実施)
- ・研修会(年1回開催)
- ・講師バンク(実績なし)

(対応者の業務負担と事故の補償に課題が残る)

- ・地域資源、問題点が浮び上がった。
- ・自分達で改善できることがあった。
- ・広域で地域が見えてきた。
- ・圏域内でも地域の違いが見えてきた。
- ・コミュニケーションがとれてきている?

活動の達成度(逢坂先生の段階を利用)

1. 仲間で共通目標をつくる
2. 街の資源をさぐる
3. 資源を分析
4. 問題点、必要なことを探る。
5. 戦略を練る。優先順位を決定

研修会やタウンミーティングにより、今までより担当者間のコミュニケーションが取りやすくなった。(一部では退院時カンファレンスへの参加など)業務の改善も行なわれてきている。

6. 多領域に“部会”を作り、ニーズを出し合い、問題解決
7. 領域同士、部会同士の融合
8. 資源を開発(技術、育成)

活動の問題点、困っている点

- ・補助金終了後の運営について
- ・圏域内で開催されている他の団体等による保健・医療・福祉連携事業とのかかわり